

丹後市民局

ルックルック!

NEWS
R3.11月号



11月13日(土)に開催された「豊栄秋花火」
主催：豊栄秋花火実行委員会
共催：豊栄連合区、豊栄まちづくり委員会

↑丹後市民局ルックルックNEWSのバックナンバーはこちら

丹後町の人口

	R3.10月末	前月比
0-14歳	422	△1
15-64歳	2,259	△16
65歳-	2,132	△1
計	4,813	△18

丹後町内の地域の動きやトピックスをお届けする

Tango 地域 news



猟友会員 (大江紘一氏、三野広海氏による講習)



京たんご ぼたん・もみじ比治の里を見学

宇川地域での就農を見据えて
宇川スマート定住促進協議会代表 小倉 伸氏)では、11月18日(木)から11月29日(月)までの12日間、2名の農業研修生を受け入れました。
当研修は農林水産省の農山漁村振興交付金を活用し、一般社団法人全国農協観光協会と連携して実施したもので、農業体験とともに、宇川地域での生活を体験し、移住を考えるきっかけ作りを提供することを目的とした「お試し宇川就農体験」です。
12日間の研修期間で、エビ芋の出荷作業や炭焼き準備のための伐採作業、鳥獣防護柵の設置作業を体験するとともに、宇川地域の課題の一つであるイノシシやシカによる鳥獣被害対策について、市農林整備課職員から京丹後市の対策状況の説明を受け、京丹後市が運営する食肉処理施設「京たんご」ぼたん・もみじ比治の里」を見学し、ジビエの活用について学習しました。その後、宇川地域の猟友会会員を講師に招き、宇川地域での鳥獣被害の状況と対策の必要性について説明を受けました。

トレーニングが趣味の地域づくり支援員吉岡秀真が「丹後町な体操」を紹介するコーナー!

たんご健康体操

第19回「丹後荒波の型」

この体操は体のいろんな部位が刺激されるので、ダイエット、運動におすすめです!

- ① 足を広めに開きます。
- ② どちらかの足の膝を曲げながら、両手を斜め下に伸ばします。
- ③ そのまま斜め上に両手を上げ、今度は②の逆側に手を伸ばします。
- ④ ③同様に斜め上に両手を上げて、1回です。∞の字を意識するとやりやすいです。

回数は特に指定はありませんが、5回程度をおすすめします。
まだまだ余裕のある方は逆回して違った刺激が得られます。
この体操は椅子に座りながらでも効果が得られます。

(地域づくり支援員 吉岡秀真)



掲載団体や話題を大募集!

スポーツ、文化芸術、サークル活動など、皆さんに広く知ってほしいニュースがある団体や個人を募集します。掲載を希望される方は、丹後市民局までご連絡をお願いします。

【連絡先】京丹後市市長公室丹後市民局(Tel.0772-69-0714)

※誌面の都合上、全ての希望に沿うことはできません。ご了承ください。

丹後町な人 (前編)

豊栄地区、宇川地区、間人地区での大學生とのワークショップに参加した時には、いろいろな意見が出て、地域の皆さんの考えを聞いて、とてもいい時間となりました。それぞれの地区がその土地の特色を生かし、活性化されるきっかけになれば素晴らしいと思います。

特に豊栄地区では地域の皆さんの声として、豊栄小学校の校歌を保存したいという声が多く、小学校が閉校されても、毎年満開に咲く桜は、豊栄地区の皆さんの原風景になつているのだと感じました。

その他、経ヶ岬灯台保存会やランダー畑の会などにも入り、草刈りや遊歩道整備などに参加しました。今ある貴重な資源を有効活用し、また守っていく活動の重要性を知ると同時に、地域資源の保全活動は少しの補助金とボランティア精神で成り立っている事に驚きました。

こういった活動により、守り、そして生かされた地域資源を有効活用することや、こういった活動を通じて稼げる形にしていくなるとはと考えると、大変な活動になります。また、コロナ感染症が拡大する前は、丹後の食材をPRするため、旬を迎えた食材を



ワークショップの様子



大宮町の風景

私は大宮町下常吉で育ちました。母の親元が丹後町間人です。小さい頃の思い出は、山と海と川の大自然いっぱい丹後の風景でした。高校を卒業し、丹後を離れ進学した時には、新しい土地での好奇心より不安の方が強かったように思います。自然との暮らしが経験がなく、知り合いがいらない新しい街での暮らしは想像以上に寂しく、違和感ばかりで生活するのに必死でもちろん楽しい事もいっぱいあり、経験、学びも多く、街での暮らしは快適かと思いましたが、忙しい毎日のなかでふと思うことがあります。

地域おこし協力隊卒業生 *大木 史帆さん*

今回の丹後町な人は、私 大木史帆です。丹後町担当として、平成30年11月19日から地域おこし協力隊に着任し、令和3年11月18日に3年の任期を終えました。この場をお借りし、皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。私なりに3年間の振り返りをさせて頂きます！

☆どのような想いで協力隊になったのか？

それは 街の色です。街の色に緑・青が少ないんです。きっとそれが長年感じていた違和感だったのでしょうね。丹後の暮らしでは85%以上が緑と青です。街には夜の明かりしか色がないように感じていました。丹後に夜の明かりは少ないです。星や月の明かりはあります。街には独特の臭いや機械音がします。丹後には木々や海があり、土の臭いや波の音風の音を感じます。全く違う環境で生活しているのをふとした瞬間に思い出していました。

今まで生きてきた時間の中で、丹後の暮らしは私の素になっており、私が成長していく過程になくはならない根本である事に気づいた時、丹後にUターンしようと思えました。

その根本となる丹後の暮らしを知りたいに知ってほしい、小さな宿をしようと思え、まずは丹後の食材を使い、丹後をアピールするお店を開き、地元で家を買う資金を貯めながら家を探しました。なかなかいい物件に出会えず、過疎化で空き家が増えているとはいえ、何故かいい物件がないのだらうと疑問に思っていました。

空き家交渉もうまくいかず諦めそうにな



間人の名勝 立岩



苦勞の末見つけた空き家

それは 街の色です。街の色に緑・青が少ないんです。きっとそれが長年感じていた違和感だったのでしょうね。丹後の暮らしでは85%以上が緑と青です。街には夜の明かりしか色がないように感じていました。丹後に夜の明かりは少ないです。星や月の明かりはあります。街には独特の臭いや機械音がします。丹後には木々や海があり、土の臭いや波の音風の音を感じます。全く違う環境で生活しているのをふとした瞬間に思い出していました。

つた事もありました。空き家を見つけるのに3年以上かかりました。結局、地域おこし協力隊になつてから、中学生時代の恩師と一緒に歩いて探して、見つける事ができました。

移住者を増やしたいのではないのか？と感じましたし、全く丹後を知らない人からしたら、丹後に移住するのはハードルが高いのでは？と身を切つて知りませんでした。

なので、次は私が恩師みたいな立場となり街と丹後の繋ぎ役になれないかと考え協力隊に着任させて頂きました。

☆3年間活動し何を感じたのか？

まずは丹後町の事を知らないといけないと思ひ、区長や会議などに出席し、お話を聞いたり、また、宇川地区では区長さんや地域の方と視察にも行かせて頂きました。丹後町において今の状態に危機感を持ち、活発に活動されているのは宇川地区でした。食に関わっている私は、加工品にも興味があったので宇川加工所にも所属させて頂き、地域のイベントへの出店や灯台での販売、バイクングのお手伝いなどをさせて頂き、宇川地区の方々との交流をたくさんさせて頂きました。



宇川加工所のみなさん



視察研修の様子



ランダー畑の会の活動

大阪の飲食店(提供したり、私の丹後での暮らしで日々感じていた事などを話して行く事が出来ましたが、コロナ感染症の拡大により、活動任期の後半は、大阪に行くことが難しくなり、街との繋ぎ役にないたかった私にとって、また、丹後に来てほしいと宿を計画している私にとって、コロナ感染症の拡大は先々不安な出来事となりました。そうでなくとも丹後町で商売する大変さは日に日に感じていましたし、そこに追い打ちをかけたように思いました。正直、今も不安しかありません。

Uターンする前は、楽しかった丹後での思い出があったから帰つてきましたが、地域おこし協力隊になり、地域を知り、地域の課題と向き合う日々の中で、地域が抱える課題の大きさに気づき、ここで住む事に不安を感じるようになっていた自分がいました。

ただ、丹後の自然は本当に素晴らしいです。丹後を訪れた大木の知り合いは、誰が来ても自然の雄大さに感動し、何かを感じるとり帰つていきます。

私にとって、私が丹後でやりたい事は間違いない！と思える瞬間です。地域おこし協力隊として活動した3年間は、地域を深く知ることで、たくさん課題を

知ることになりましたが、その大半の課題は今に始まった事ではなく、長年積み重なってきたものだと気づくことができました。地域全体の事はしっかりと皆で時間をかけ、どういふ地域にしたいのかを話し合い、住民の皆さんが納得した上で決定していくことが一番望ましいのではないかと強く思います。今、直面する課題である人口減少により地域コミュニティが成り立たなくなっていく問題と日々向き合っていくしかない現状の中で、丹後町で出会う人は元気な人が多く、年齢より若く見える人達ばかりでびっくりしたのを覚えています。そして何より皆さんの生活が豊かだとわかりました。私が田舎に帰ったかった一つの理由かもしれません。

ここに理想があるように感じます！



今回の丹後町な人【大木史帆】さんの後編は次回の第32号で掲載予定です。乞うご期待！

丹後町な人 (前編)